

平成25年11月 マンスリー レポート

集計企業数 **60** 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	50,108,102 万円	100.0%	104.3% (102.6%)	48,110,184 万円	101.8% (100.5%)
食 料 品	41,422,877 万円	82.7% (83.8%)	105.2% (103.5%)	39,726,763 万円	102.4% (101.1%)
農 産	6,151,392 万円	12.3% (13.0%)	112.5% (108.4%)	5,954,748 万円	109.6% (105.8%)
水 産	4,094,019 万円	8.2% (8.0%)	104.1% (102.9%)	3,899,667 万円	101.0% (100.1%)
畜 産	5,175,202 万円	10.3% (10.0%)	108.0% (106.4%)	4,967,427 万円	105.0% (103.5%)
惣 菜	4,268,385 万円	8.5% (8.7%)	106.0% (103.7%)	4,081,159 万円	102.7% (100.6%)
日配食品	9,290,810 万円	18.6% (19.1%)	105.3% (103.8%)	8,895,700 万円	102.6% (101.3%)
加工食品	12,443,069 万円	24.8% (25.0%)	100.9% (100.0%)	11,928,062 万円	98.3% (98.2%)
生活関連	3,512,578 万円	7.0% (6.2%)	100.8% (99.2%)	3,408,061 万円	99.7% (98.3%)
衣 料 品	2,004,679 万円	4.0% (3.2%)	96.5% (93.3%)	1,920,998 万円	96.3% (93.5%)
そ の 他	3,167,968 万円	6.3% (6.8%)	101.7% (99.0%)	3,054,362 万円	101.1% (98.9%)

② 数 値

全店総売上高	50,108,102 万円	店 舗 数	4,463 店舗
総売場面積	8,677,851.6 m ²	総従業員数	226,936 人

店舗平均月商	11,227.4 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,821 円 (101.8%)
月間m ² 売上(前月)	5.8 万円 (5.8 万円)	平均店舗面積	1,944.4 m ²
月間坪売上(前月)	19.1 万円 (19.2 万円)	パート比率(前月)	77.3% (77.2%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 11月を通して例年より気温が高い月だった。特に上旬は高く推移し、おでん商材などホットメニューの動きが少なかったが、中旬以降より気温が下がりはじめ、鍋商材の動きが良かった
- ・ 木曜日が一日少なく、土曜日が一日多い曜日回りで、曜日指数が上がったことで既存店前年比が2か月連続、食料品では6か月連続でクリアした
- ・ 「即食・簡便」など無駄のない簡単便利商品の動きが良かった
- ・ 野菜の高騰が続く影響で、カット野菜やサラダの動向が良かった
- ・ 原材料の高騰が進み、原価率の上昇も売価に反映できず利益面で苦戦した。また、ホテルや外食などの食品偽装の影響で、商品の供給がタイトになった

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 野菜の相場高の影響で、点数が昨年比を割っている状況も、単価上昇によりカバーしている状況となった。また、カット野菜、もやし、カイワレ、きざみネギなど低単価商品やすでにカットされた便利野菜などの動きが良かった
- ・ 中旬以降の気温が下がった影響で、きのこ類の動向が良かった
- ・ 果物では、みかん、バナナの動きが良かった

○ 水産

- ・ 水揚げ遅れの生さんまの動向が良かった
- ・ 気温の低下に伴い鍋商材は好調に推移した
- ・ 生かきは、ノロウイルスの報道後も好調に推移した
- ・ 塩干では、塩鮭、干物、しらすのベーシック商材の動きが良かった
- ・ ギフト商材では、カニが好調に推移した

○ 畜産

- ・ 牛肉は、国産牛を中心にうす切り、切り落としの動向が良かった。豚肉は、切り落とし、しゃぶしゃぶ用の動向が良かった。鶏肉は、もも肉中心に動向が良かった。加工肉では、ウィンナーの動向が良かったが、ロースハムの動向は鈍かった
- ・ 豚肉、鶏肉の相場高騰により販促価格に影響があった

○ 惣菜

- ・野菜高騰の影響で、サラダ類（ポテト・パスタ・葉物など）の動向が好調に推移した
- ・フライ、チキン関連の輸入品は原材料の高騰により、サイズダウンを余儀なくされたが、動きが鈍く苦戦した

○ 日配・加工食品

- ・上旬は鈍かったおでん商材は、中旬以降好調に推移した。また、その他にも冷凍麺や冷凍野菜、具付きレンジアップ商品の動向が良かった
- ・牛乳は、価格上昇の影響で点数がダウンし、加工乳の動向が良かった
- ・風邪対策で、ヨーグルトや機能性飲料の動向が良かった
- ・漬物関係は、昨年の食中毒報道から一巡し、浅漬け、古漬け、またいりぬかなど漬物関連品などの動向も良かった
- ・ホットメニュー関連（鍋つゆ・すき焼きのたれ・スープ・インスタントコーヒー・ラーメン・レトルト食品・レンジ対応食品など）の動きが良かった

○ 「ボジョレーヌーボー、ウインターギフト」について

- ・高単価商品の動向が良かった
- ・ペットボトル、ハーフボトルはやや苦戦した
- ・関連販売として展開した、サーモンやチーズ、クラッカーなどの動きが良かった
- ・ハムギフトは早期割引を中心に動向は良かった
- ・スイーツ類、飲料類、酒類の動向が良かった

○ 「クリスマス・おせち予約販売」について

- ・クリスマスケーキの予約は、ホテル、パティシエの高額商品の動向が好調に推移している。また、キャラクター・アソートケーキ（詰め合わせ）の動きも順調に伸ばしている
- ・おせちの予約は、10,000円前後の動きが良く。中でも、2段重の人气が高く動いている

以上